



羅針盤-卒業記念号-

COMPASS

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職をめざす学生・卒業生のために

第129号 2019.3.9（土）発行

関西外国語大学

教職教育センター

お祝いの言葉「卒業・進級おめでとう」

教職にかかわる先生方より、みなさんへお言葉をいただきました。
今日のハシの日にみなさんへ。

「自分らしく、粘り強く」そして「楽しみながら」

英語キャリア学部（小学校教員コース） 教授 浦嶋敏之

みなさん、ご卒業おめでとうございます！

2018年の夏は、とにかく熱（暑）かった。記録的な猛暑に負けないぐらい、皆さんの教職へチャレンジする熱い思いが伝わってきたのを思い出します。今年度の4年生は、本当に最後の最後まで粘り強く取り組んだと思います。

思うように進まない筆記試験対策、教育実習で知った子どもたちの課題、いろんな先生からのアドバイスに揺れる自分、面接練習で伝えたいことが表現できないもどかしさ。そんな様々なハードルに自分を失いかけた時、「先生になって、何をしたいのか。」を何度も何度も自分に問い直しながら、教職への本気度と自分のステキな面を再確認することで乗り越えてきましたね。そして、傍には志を同じくする仲間の姿がありました。

どのような進路を選択しても本気で取り組んだ経験は、人（先生）として、すべてみなさんの宝となります。この宝は、これからも自分らしく学び続けるエネルギーになります。

2月22日、惑星探査機「はやぶさ2号」が、地球から約3億kmはなれた小惑星「リュウグウ」に片道2年半をかけて到着し着陸に成功しました。これには、日本からブラジルにある直径6cmの的に当てるような精密さが必要だそうです。その最先端のサイエンスとテクノロジーの結晶である探査機を支えているのは、人間の職人技です。探査機の頭脳である電子基板には、軽量かつ宇宙での過酷な

環境に耐えうる強度が求められ、匠のはんだ付けの技が生かされています。また、「はやぶさ」は、地球からの制御により、トラブルがあるたびに最善の策を決断し軌道修正を繰り返し、「リュウグウ」上空に到達しました。そして、惑星への降下の最後の5km以降は、自立（制御から外れ自分で判断）して着陸しました。

成功の記者会見でスタッフは、「しつこいぐらいの準備」と「それぞれの持ち味を生かしたコミュニケーション」そして「ミッションを楽しむ」ことを大切にしていると語っていました。

私にはこのニュースが、この夏の皆さんの姿や、これからのみなさんのミッション（子どもの自己実現を目指す教育の営み等）と重なって見えました

これからも「自分らしく、粘り強く」そして「楽しみながら」、多くの「子はやぶさ」たちを送り出してください。

“GO FOR it!”



「国際派の教員として、日本の明るい未来を育てて！」

外国語学部 教授 梶田純子

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

最近、海外調査出張から帰りました。そこで見たこと、考えたことは、世界の国境はなくなっており、人の移動は急速に進んでいるということです。

日本は、長年、外国人の入国を制限してきましたが、急速に外国人が増えています。これから法律改正で、さらに進むことでしょう。その家族として来日した子どもたちは、日本に馴染めず、困っている現状もあります。

みなさんが、これから関わる学校や地域にもそういう子どもたちがいると思います。その子どもたちを日本嫌いにならないで、日本の未来と一緒に考えていくことができるよう、みなさんが先頭に立って行ってください。

関西外大は、多文化のための教育、教員や同級生や留学生にも多文化の人たちがいて、様々なことを学ばれたと思います。また海外に行った経験もあることと思います。是非、皆さんが、その経験を生かした教員、社会人になってくださることを希望します。楽しみにしています。

開 花

短期大学部 准教授 堅田利明

教員を目指されている、または教育に関連する職業を目指されている皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

数々の講義や学生生活、留学、教育実習といった様々な体験を通して得られた学びの数々は、いま、つぼみから開花する時期を迎えようとしています。どんな色合いを用いて形や大きさに交錯させるか、においや感触、可憐さ、ひきつける魅力、様々な要素が連関して1つの結晶としての開花です。社会人になってからは、根や葉をさらに伸ばしながら学びを吸収していき、成長という陽の光を受けながら幹を太くし、またいつか開花の時期を迎えます。それがいつごろになるのか、果たして人生で何回開花の時期を迎えるのか、それはまだ未知数です。

精神科医のビクトル=フランクルは、アイシュビッツでの被収容者としての体験を『夜と霧』に綴りました。「この世には自分を必要としてくれる何か、誰かが必ずいる。その何か、誰かのために自分ができることがある」というフランクルの言葉は、絶望のふちに立たされている大勢の被収容者に、生き続けようとする意志を鼓舞しました。自分を必要としているもの、求められている誰かを、がむしゃらになって見つけ出していくというよりも、もうすでに存在しているのだ、というフランクルの考え方にみなさんはいかが思われるのでしょうか。新たな思いを胸に、次の一步を祝して。



卒業生および進級生の方々へ

外国語学部 准教授 川村 悟

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。教育実習と同時に、それぞれの進路に向けた活動を進められ、今年度は慌ただしく過ごされたと思います。卒業を無事に迎え、ほっとされた方々も多いのではないのでしょうか。

卒業生のみなさんは、今年度教育実習という貴重な経験を積まれました。多くの時間を授業準備に充て、学生の前で授業を行い、これまで経験したことがない緊張感を感じた方も多かったのではと思います。また、多くの生徒の関心が自分に注がれるというのは、教員ならではの希少な体験です。卒業後、一人の社会人として教育実習のような大きなプレッシャーを感じる場面に遭遇することもあるはずです。そのような時は、自分が実習をどのように乗り越えたのか、初心にかえってぜひ思い出してください。みなさんの今後のご活躍を期待しています。

進級生のみなさん、今度はあなたたちの番です。教育実習、それぞれの進路に向けた活動など、来年度は忙しくなります。適度な緊張感を持って、準備を怠ることなく、来年度に臨みましょう。

一步だけ前に！

英語キャリア学部 教授 坂本 暢章

卒業おめでとうございます。いよいよ4月から社会人としての第一歩が始まります。

“社会人”という言葉は日本特有の言葉で、“学生”の対義語としての意味合いがあるらしいのですが、私は、人間としてのインプットとアウトプットの割合が入替わる瞬間ではないかと考えています。皆さんには、これまでの多くの学び(インプット)を糧にして、仕事の成果(アウトプット)をしっかりと出してくれることと期待しています。

ただ、今までの大事なインプットも、やがては枯渇したり、古くなったりして使い物にならなくなる。そこで燃え尽き(バーンアウト)ないためには、常に新しいインプットを心がけることが大事です。教員は生涯を通じて学び続けなければならない…と言われていますが、長い人生の中で新しい物や人に出会って学び続けることは、全ての人々に共通したことだと思います。

新しい物事、様々な人々、変化する社会…。すてきな経験があれば、つらい、しんどい経験もあると思います。その様々な出会いに、まずは正対し、吟味し、取捨選択し、取り入れ、または排除する、そのような営み(インプット)を楽しむ柔軟さと逞しさを併せ持ちましょう。そして、今よりも“一步だけ前に”進もうとする人になってください。



飾らず、隠さず

英語キャリア学部 教授 新坊 昌弘

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが生まれ育った平成という一つの時代が幕を閉じようとしています。そして、いよいよ新たな時代が始まります。時を同じくして、皆さんも「学生」としての生活に幕を閉じ、いよいよ「社会人」としてその一步を踏み出すことになります。

そんな皆さんに、最近読んだ本の中から一部を紹介します。

実は、組織に属しているほとんどの人が、本来の仕事とは別の「もう一つの仕事」に精を出している。お金ももらえないのに、その仕事はいたるところで発生している。大企業でも中小企業でも、役所でも学校でも病院でも、営利企業でも非営利団体でも、そして世界中のどの国でも、大半の人が「自分の弱さを隠す」ことに時間とエネルギーを費やしている。まわりの人から見える自分の印象を操作し、なるべく優秀に見せようとする。駆け引きをし、欠点を隠し、不安を隠し、限界を隠す。自分を隠すことにいそしんでいるのだ。

Robert Kegan , Lisa Laskow Lahey (2017) - なぜ弱さを見せあえる組織が強いのか - 英治出版

この本では、このような人と組織の在り様が、個人の成長を妨げ、組織としての成果を阻害してい

ると言っています。「社会人」としての日々は、これまでの生活とは一変することになります。突きつけられる理想と現実のギャップ、次々と立ちはだかる困難な壁、思い知らされる力のなさ。そのような日々の中で、全ての時間が仕事に奪われ、時として自分を見失ってしまうのです。

自分を優秀に飾らず、自分の弱さを隠さず、支援を求め、アドバイスを求め、沢山のことを吸収しながら、ゆっくりと自身を成長させていって下さい。焦らず、慌てず・・・。

これからの道のりは長いのですから・・・。

皆さんのそれぞれの道での活躍を心より祈っています。



Congratulation!

“Contribute on Drastic Change for English Education!”

“Be conscious of Visualizing in English Class!”

“Make much of Output English Education!”

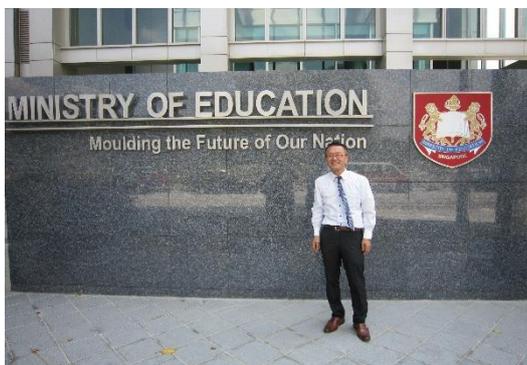
“Explore, Create and Perform!”

(Takahiko Nishimura) 英語国際学部 教授 西村 孝彦

Congratulation on your graduation!

Tokyo Olympic Game will be held in 2020 and World Expo 2025 will be held in Osaka.

We have a big wave for English educational reform in Japan for Tokyo Olympic and World Expo in Osaka. Ministry of Education and each prefecture will change English education strongly and drastically. I would like you to ride on the big wave and contribute on drastic change as a Kansai gaidai graduate.



(The Singapore Ministry of Education)

I visited the Singapore Ministry of Education and National Institute of Education. As you know Singapore Education is well-known in the field of PISA (Program for International Student Assessment) all over the world. Singapore Ministry Education has strongly focused on English Education (TESL, TEFL, TESOL) and teachers' training in the NIE (National Institute of Education), which is only one institution in Singapore in order to unite multi-lingual and cultural nations. Singapore Education has three mottoes: “EXPLORE, CREATE and PERFORM”. I got the “Power of Singapore Education”.

In Japan also we should have drastic English educational reform. That is to say, it is necessary for us to get rid of “Grammar Translation Method” and to make much of “Output English Education for presentation”. To get our drastic change, from my point of view, first all we have to do is to “Be conscious of Visualizing”. In the field of

TESL, TEFL and TESOL all over the world, people try to study for expressing their own opinions in English through visualizing. Japanese Ministry Education also hopes you to put the TESOL strategies into the English education in Japan. It prepares a lot of oversea programs for English teachers of the young generation.

I hope you will contribute on English education with your world-wide point of view. Think globally and act locally. Think and act glocally.

Finally, please keep my mottoes in your mind. Congratulation on your graduation!

A: Advance (Step forward anytime and anywhere)

B: Believe in yourself

C: Continue to challenge

D: Don't compare with others. Don't be afraid of making mistakes

E: Encourage



送る言葉

「レジリエンス (Resilience) の獲得に向けて」「着眼大局 着手小局」

英語キャリア学部 教授 藤原 一秀

小学校教員コースの皆さんご卒業おめでとうございます。

晴れやかな心、弾む思い、膨らむ夢や希望、そんな中にちょっぴり不安も混じっているかもしれません。良い時を迎えられましたね！

思い返すと3月23日第1回のアドバイザー懇談会の時が最初の出会いの場でした。今は居られない小寺コース長、岡沢、渡邊、落合、角野先生と共に期待を持って皆さんを迎えました。そして、個性が際立つ学年集団に成りそうな予感を感じ、この新しい出発に気持ちを引き締めたものです。

この時に、私から「レジリエンス (Resilience) の獲得に向けて」をテーマにこの4年間を通し「回復力」「復元力」「弾力性」がある「折れない心」を育てて欲しい、その方法の一つとして「着眼大局 着手小局」将棋や囲碁の世界でよく使われる言葉ですが、この言葉を送りました。大局を見極める目・思考力・判断力等を身に付け、身近な確かな一手を打ち出せる力を組み合わせることで物事は達成されていくものだと思います。

今この時、4年間を通し貴方達は「レジリエンス (Resilience)」を十分に身に付けられたと確信をしています。体調には充分注意して頑張ってください。

出合い、成長、感謝！

関西外大短期大学部 教授 藤林富郎

ご卒業、ご進級、おめでとうございます。(卒業、進級なさらない方も、新年度を迎え、おめでとうございます。)皆さんと出合い、共に成長できたことを心から感謝しています。ありがとうございました。

春は、はじまりの季節ですが、皆さんはどんな人生をスタートされるのでしょうか？

皆さんは、これからもさまざまな悩みを抱え大小いろいろな問題に直面し、それでも、希望を胸に、進んでいかれることでしょう。「会う人みな我が師」とは、空海の言葉ですが、出会う生徒の一人ひとり、そのご家族の方々、職場の上司・諸姉・諸兄、そして、書物や映像、身の回りの大自然も含め、人生のあらゆる出合いに、なんと学びのチャンスが多いことでしょう。学び、吸収し、また、誠実に誇りと自信をもって発信し、生きがいに溢れた人生を歩み続けられることを願っています。

「実るほど頭が下がる稲穂かな。」そして、一生をかけて、多くの出合いを喜び、おおいに自分を伸ばし、成長し、充実と感謝で頭を下げられる、そんな、魅力的な人になることを、お互いにめざそうではありませんか！

皆さんに、私から贈りたい言葉は、英語では、“grit(≒growth mindset)” や、“resilience” を使って、“Be a person of the true grit.” とか、“Be resilient.” または、おなじみの“Never give up.” となります。人生、やっぱり、「七転び八起き」ですね。いつも笑顔でお過ごしくださいね！



一人ひとりが輝く未来へ

英語キャリア学部 教授 山下吉信

ご卒業おめでとうございます。

この地球に「いのち」が誕生して38億年。壮大な「いのち」のつながりの中で一度だけ与えられるかけがえのない「いのち」。人間はその命を守るために家族をつくり仲間をつくりました。そうです、皆さんは大切な人に守られ生きてきました。そして今、新しいステージに向かおうとしています。若者は自己チューだとか、自分の思うようにならないと気がすまないと言われることがあります。しかし、人生経験がまだ浅い段階で懸命に「自分探し」をしようとするれば、バランスの悪い人間に見えます。自分の才能を伸ばそうとしたり、好きな道を歩もうとすれば、周りとはぶつかり合うこともあります。そんなとき、大切なのは「居場所」だと思います。心地よい「居場所」とは、ほかの人にとって自分が必要とされ、頼りにされている場所です。そして、自分で自分のよさを認め、「わたしはできるんだ」という気持ちが高ぶる場所なのです。

この学び舎で皆さんは多くの仲間とくらし、自分の気持ちを仲間に伝え、時にはぶつかりあい、お

互いに笑いながら共感や感動を重ねてきたことでしょう。そして、お互いに信頼関係を築いてきました。それは安心できる「心地よい居場所」があると信じていたからです。心の底から「ありがとう」と言える仲間がいるからこそ一人ひとりが輝くのです。そして、このような仲間との関わり合いの中で【たくましい命】が育つのです。どうぞ、「愛いっぱい」のこの学び舎で手にいれた「宝もの」をいつまでも大切にしてください。わたしも皆さんからの「心の贈り物」を大切にします。ありがとう。



「今春、教員になられるみなさんへ！」

関西外国語大学 短期大学部 教授 明石一朗

ご卒業、おめでとうございます。

そして、今春から教員になる学生のみなさん！更に、おめでとうございます！

ところで、教育は子どもの「人格の完成をめざす」ものとされますが、その教育を担う教員に求められる資質として、①豊かな人間性②実践的な専門性③開かれた社会性があります。では、具体的にはどういうことでしょうか。例えば、

- ・一人の社会人として社会的常識が備わり人間味があること
 - ・教育に対する情熱にあふれ専門的知識が豊かで指導力があること
 - ・子どもの気持ちや感情を敏感に感じ取りコミュニケーション力が高いこと
- などでしょうか。

一言で言えば、教育の基本は「子どもが好き」ということではないかと思えます。

あなたは、「子どもが好きですか？」

現実には、「好き」なだけでは教育の仕事は務まらないのですが、まずは、「子どもが好き」という子どもに対する「愛情」が出発であると思えます。

毎朝、恋人にあうような気持ちで、胸弾ませて学校に行くのが教員であるのです。

私がかつて受け持った子どもたちの意見では、

子どもが好きな先生のベスト5は、

- ① ユーモアがある
- ② 親しみやすい
- ③ やさしくもあり、時にきびしい
- ④ 教え方が上手
- ⑤ 相談にのってくれる

子どもが嫌いな先生のワースト5は、

- ① えこひいきをする
- ② 気分で短気ですぐ怒る

- ③ がんこである
- ④ 独断的である
- ⑤ 愚痴や小言をよく言う

でした。

ここ数年、学校現場では新規採用教員の激増期をむかえ、毎年多くの新しい教員が学校に来ます。今ほど、教員の使命感と情熱・専門性に加えて、その人の人間性が求められている時はありません。子どもにとって、最大の教育環境は先生が存在であることを自覚して、みなさんの好奇心と探究心が子どもの夢や志を育む「授業がうまくて、人間味にあふれる先生」になってください。

最後に、オーストリアの著名な動物学者であるコンラート・ローレンツ博士は次のように語っています。

「人は、自分の好きな人、しかも尊敬する人からのみ文化・伝統を受け継ぐことができる」と。

——編集後記——

ご卒業おめでとうございます。入学から本日まで、いろんなことがありましたね。楽しかったこと、苦しいなって思ったこと。いっぱい心に蘇っていることと思いますが、これが10年後には「あんなことあったな。青春だったな」なんて思い出すもんなんです。ホントです！

みなさんの今後に幸多からんことを。 また会いましょう！

メッセージ

